

## 児童発達支援 事業所における自己評価表（公表）

公表：令和6年3月29日

事業所名 Rainbow Kids Lab.

		チェック項目	はい	いいえ	備考
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		
	②	職員の配置数は適切である	○		
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		業務改善のための目標設定と振り返りについては、管理者兼児発管や、法人経営者で行っています。また、全職員が参加するミーティングで共有しています。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	現在は、第三者による外部評価を行っていませんが、今後必要に応じて実施を検討していきます。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		日常的にOJTや内部研修により資質の向上を図っています。また、外部研修への参加より得た知識などを全体で共有しています。
適切な支援	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		

の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		
-----	---	--	---	--	--

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		療育ごとに、職員で話し合いながら活動プログラムを立案しています。お子様の変化に応じてプログラムを調整しています。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		来年度以降、個別活動と集団活動を組み合わせることをより一層行っていきます。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		どの発達課題にアプローチしたかなども記録し、検証・改善につなげています。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		
関係機関や保護者との	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		本年度は実施がありませんでした。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		お子様が通っている保育園や幼稚園等の訪問をする等で、関係機関と連携した支援を行っています。
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		現在、利用者の中に医療的ケアが必要なお子様はいらっしゃいませんが、そのようなお子様が利用なさる場合は、関係機関と連携した支援を行います。

連携関係機関や保護者との連携	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	現在、利用者の中に医療的ケアが必要なお子様はいらっしゃいませんが、そのようなお子様が利用なさる場合は、お子様の主治医や協力医療機関等と連携した支援を行っていきます。
	㉑	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	保護者様のご希望に応じて、保育所や幼稚園と定期的に情報共有をしています。
	㉒	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	保護者様のご希望に応じて、お子様の療育の様子を、就学先の小学校に情報提供をしています。 就学先の小学校も交えたケース会議も実施いたしました。
	㉓	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	児童発達支援事業所やその他専門機関の主催する研修に参加しています。
	㉔	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○	保護者様のご希望に応じて、地域の遊び場などで活動をしています。

保護者への説明責任等	㉕	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	
	㉖	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	
	㉗	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	お子様の状況や保護者様のニーズに応じて、ご家庭での効果的な支援方法について助言を行っています。また、テーマを設けて、集団でのペアレントトレーニングも実施しました。
	㉘	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	ご契約時に、書面をもとにご説明をしています。事業所内の掲示板に書類を掲載しています。
	㉙	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	
	㉚	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	毎回の支援の後に保護者様とお話し、ご相談があった際にはアドバイスや支援を行っています。また、必要に応じて面談の機会を設けています。
	㉛	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	集団でのペアレントトレーニングを行い、保護者同士の連携の機会を創りました。

	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、翌月の利用希望アンケートを送信する際に、活動概要や行事予定について情報を発信しています。ブログでも、活動の様子を報告しています。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○		
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		必要に応じて、視覚的情報を利用するなどの配慮をしています。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		今後、開催を検討しています。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		緊急時対応マニュアルや防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等は策定し、職員には周知しています。避難訓練は年に2回実施しています。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している。	○		
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		日常的に食べ物の提供は行っていません。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。